

地域活性化のための継続的家庭科教材の提案

一浜ちりめんを用いたウエディングドレスの制作

A20AB034 北河 瑞葵

1. はじめに

日本では、全国各地で多様な伝統産業が受け継がれている。その中でも織物は、歴史が深く、多くの地域で伝承されているが、中でも、蚕から採れる生糸で織られる絹織物は昔から最高級品として扱われてきた。しかし、ファストファッションが広まった現代社会において、絹織物は高級品というイメージもありアパレルブランドで扱われる機会が少なくなり、徐々に衰退している現状がある。日本各地に幾つもあった縮緬の生産工場は数が減り、今では縮緬は二大産地である京都の丹後地方と滋賀県の長浜が主な産地になっている。

一方、学校教育において伝統文化の継承の重要性は謳つているものの、地域の伝統産業の中で織物について学ぶという機会がほとんどない現状にある。

そこで、本研究では地元地域である滋賀県の長浜市の伝統織物である「浜ちりめん」を主軸とし、中学校課程、高等学校課程と段階を踏み、継続的に学習することができる家庭科教材について提案した。また、伝統産業と現代衣装の融合による、織物の多様性を伝えるため、浜ちりめんを用いたウエディングドレスの制作も行った。

なお、本研究による教材の提案が、地域の伝統産業である浜ちりめんの認知を広めると共に、さらなる発展へと繋がるものと考える。また、浜ちりめんを用いたウエディングドレスの制作により、ちりめんが和装というイメージを払拭し、現在のファッショニに応用するきっかけになると考える。

2. 浜ちりめんについて

縮緬とは、よこ糸に強撚糸、たて糸に無撚糸の生糸を交互に打ち込んだ絹織物の総称である。平織に製織し、ソーダ灰を混ぜたせっけん液で数時間煮沸して縮ませ、水洗いして糊を取り、乾燥させて仕上げる。シワになりにくく、伸縮性に優れ、表面にシボと呼ばれる凹凸がはっきりと出るのが特徴である。

その縮緬の中でも、最高級品として扱われる浜ちりめんは、全て平織、後練りで仕上げられる織物であり、無撚糸のたて糸と、強撚糸のよこ糸で織られたものである。精練に琵琶湖の軟水を使用するため、手触りや染色性に優れている。シボの形や模様は、撚糸の組み合わせと撚り数の組み合わせで決まり、浜ちりめんは基本的に21本か27本の生糸を撚った撚糸で織られている。「模様のない白生地」であることが最大の特徴であるため、染めはせず、基本的に和装用として販売し、京都などで友禅に染められる。今回の制作では、図1に示した一般的な縮緬に諸撚りの糸を織り込んだ、縮みにくいという性質を持つ「変り三越ちりめん」と呼ばれる縮緬を用いた。

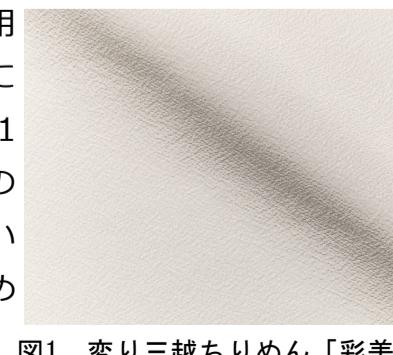


図1 変り三越ちりめん「彩美」
(吉正織物工場HPより)

3. 各教育段階における教材の提案

小学校では、縮緬について知ることを目標にし、他の様々な生地と比較しながら実物を見て触って、伝統を「感じる」ことができる授業を開催する。中学校では、小学校で学習した知識を用いて、地域の伝統産業に対して興味を深め、伝統を「学ぶ」ことを目標とする。さらに高等学校では、今までの学びを活かして伝統を「継承する」ことを目標として、各教育段階に応じた継続的家庭科教材を作成した。

3-1 中学校課程の教材：箸袋

中学校では、比較的簡単に作成できる箸袋を教材に設定した。完成作品を図2に示した。滋賀県では、学校給食を採用している中学校がおおよそ一般的であるため、使用頻度が高く、和のイメージがある箸の袋を制作することで、地域の伝統織物を身近に感じ、興味を持たせることを目標とする。



図2 完成作品（中学校課程の教材）

3-2 高等学校課程の教材：ミニトートバッグ

高等学校では、生地を染色するという技術を体験することができる、ミニトートバッグを教材とした。縮緬は特有の無数のシボを持っているため、染色した際の生地の表情に個体差が出やすい（図3、4）。また、実習形式の授業数が多くない家庭基礎でも、取り入れやすい教材になると見える。完成作品を図5に示した。



図3 染色の様子



図4 染色直後の様子



図5 完成作品（高等学校課程の教材）

4. ウエディングドレスの制作

4-1 デザイン

縮緬の特徴であるシボを活かすため、全体的な装飾は控えめに、ドレスはXラインを選択し、パニエもボリュームが出過ぎないよう、全体的に落ち着いた雰囲気になるように設計した。また、滋賀県の県花である「石楠花」(図6)をモチーフにした装飾を施すこと、「浜ちりめん」発祥の滋賀県長浜市との関連付けを行った。



図6 石楠花の花
(滋賀県庁HPより)

4-2 制作方法

まず、シーチングを用いてドレーピングにより、スカート部分のシルエットや身頃の形を検討し、パターン展開を行った。作成したパターンに縫い代をつけて図7のように裁断した。

次に、表地の縮緬生地、裏地を裁断し、身頃の表地には接着芯を貼り、張りを持たせた。その後、身頃とスカートを前後それぞれ縫い合わせ、後身頃の中心線にコンシールファスナーを付け、肩線、脇線の順で縫い合わせた。

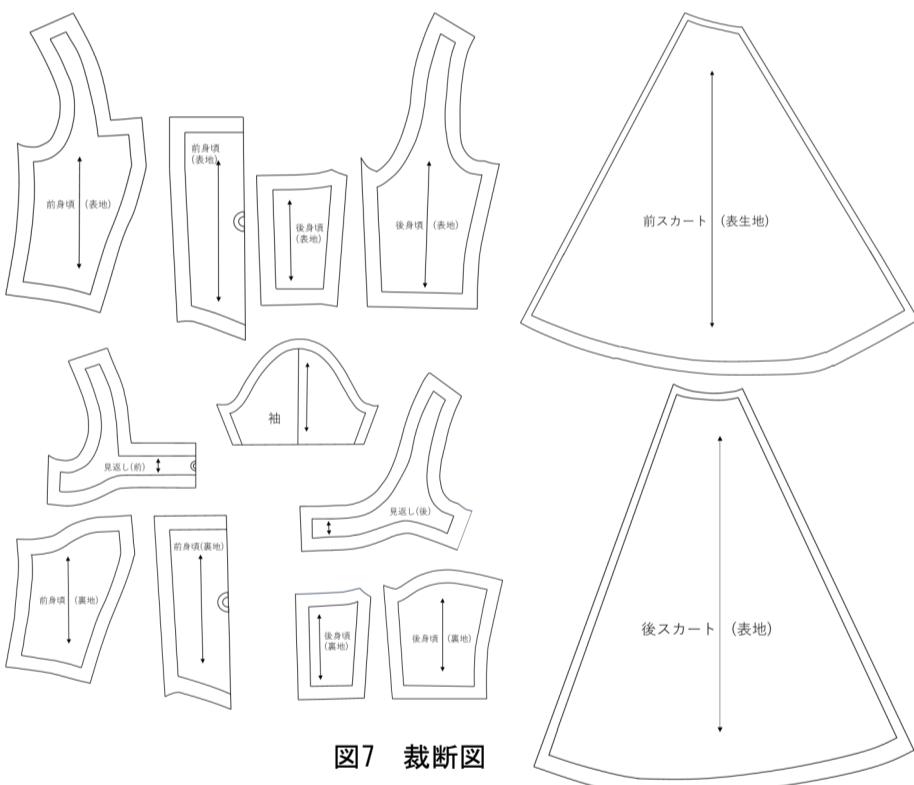


図7 裁断図

次に、裏地と表地を中表で合わせて襟ぐりを縫い、袖付けを行った。袖はレース地で透けるため、袖ぐりは裏地でバイアステープを作成し、縫い代を包んだ(図8、9)。その後、スカートの裾を纏るなどの細部の縫製を行い、スカートに広がりを持たせるために、図10に示したパニエを制作した。



図8 縫製の様子



図9 袖ぐり



図10 パニエ

最後に、図11、12、13に示したように、表地の残布で作成した花やモチーフレース、パールビーズ等で身頃からスカート部分にかけて「石楠花」をモチーフにして装飾を行った。



図11 モチーフレース



図12 残布とビーズで作成した花

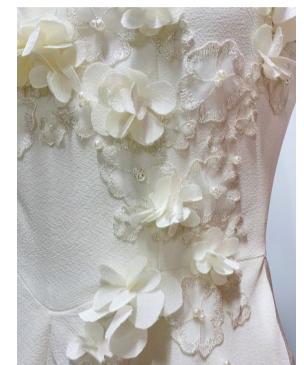


図13 身頃の装飾

4-3 完成作品

完成した作品を図14に示した。



図14 完成作品（ウエディングドレス）

5. おわりに

本研究では、地元地域の伝統産業である「浜ちりめん」を取り上げて、伝統産業の発展を促すための教材として、中学・高校の被服実習の教材提案と、ウエディングドレスの制作を行った。本作品を通して、子どもたちが地元の伝統産業について知り、学ぶきっかけになると同時に、「浜ちりめん」という伝統産業を周知し、和装だけでなく様々な分野へ発展させる手がかりになれば幸いである。

6. 参考文献

- 1) 長浜市長浜城歴史博物館：「糸の世紀・織りの時代 湖北・長浜をめぐる糸の文化史」サンライズ出版 (2010)
- 2) 浜ちりめんについて - 有限会社 吉正織物工場HP
<https://yoshimasa-orimono.jp/about>
- 3) 東京書籍：「新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」
- 4) 文部科学省：「中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説技術・家庭編」